

「やきものの里のネコ」 ご挨拶

日本全国に「やきものの里」がありますが、ネコと陶器とはよく似合うと思っています。ネコの動きと陶器から醸し出される神秘さとは、まるでネコの目のように不思議な色艶となってネコと陶器とを調和させます。それはネコと暮らしを共にする陶芸作家の方々の魅力ともなっているような気がしています。その魅力とはきっと色気のようなものかもしれません。そう、言ってみればネコを見かけないような町に色気はありません。ただネコを好きではない陶芸作家は「ネコは大切な土に粗相をする」とおっしゃるのです。確かなことかもしれません。一方、ネコの好きな陶芸作家は「ネコは決まったところで用を足すから心配ない」とも。いろいろありますが「やきものの里」を歩きながら出会うネコたちをご覧ください、ネコを好きになって下さればうれしいかぎりです。

さて、御当地笠間の陶芸作家の方々と暮らすネコたちにも登場してもらっています。青磁の大皿から水を飲むネコがいます。ネコのためにというかネコが勝手に水飲みにしているのかもしれませんが、青磁の上品な色にネコの目の色がハーモニーを奏でています。また、陶芸作家とその足下で甘えるネコにも暮らしを共にする温かさがあふれます。この場をお借りして改めてお礼を申し上げます。

岩合光昭